

# 地元の塩あめコラボ 熱中症予防を発信

## 熊谷富士見中

熊谷市立富士見中学校(田沼良宣校長)の保健委員会の3年生11人は、同市銀座のショッピングセンター「ニットモール」で、学区内にある同市中西の老舗「ニシダ飴(あめ)」(西田佐知男店主)と協力し、同店の塩あめと生徒らが作成した熱中症予防リーフレット入りのティッシュを300セット配布した。同企画は「『暑さ対策』地

塩あめと熱中症予防リーフレットを配布する生徒たち。熊谷市銀座のニットモール



域へ発信!中学生サポーター事業の一環。中学生が学んだ熱中症の正しい知識や予防

・対処法などを地域に発信するため、保健委員が自らリーフレットを作成している。

同校のキャラクター「ふじミルクくん」がプリントされた

パッケージには「ふじミル塩あめ」と書かれ、塩あめの中にアクセントとして一つだけ鮮やかなブルーのソーダ飴を交ぜた。

同委員長の嶋崎慶さん(14)

は、「暑い夏を乗り切るためにしっかりと対策をしてほしい」と来店客に呼びかけた。大川紗季さん(15)は、「甘くてしょっぱいあめは優しい味。サイダー飴が爽やかです」とこぼす。

養護教諭の根岸幸代さん(55)は「老舗とのコラボは生徒からの発案でした。地元を知ること、地域の方が高い関心を持ってくれてうれしい」と話していた。来店した小林友子さん(77)は、「中学生のとても良い取り組みですね。塩あめ、ありがと」とうれしそうに受け取っていた。

(タウン記者・栗原和江)